



公開シンポジウム報告書

東京大学の 英語教育

改革の道程と今後の展望

日時：平成19年5月25日 12:30～17:30

場所：東京大学駒場 I キャンパス18号館ホール

主催：東京大学教養学部英語部会・教養教育開発機構

はじめに

東京大学教養学部は、東京大学に入学したすべての学生に対し1, 2年次の教養教育を行う前期課程と、教養学部に所属する3, 4年生に対して専門教育を施す後期課程とに分かれる。このうち前期課程の教育については、平成18年度に大幅なカリキュラム改革を行った。これは平成5年度以来の大きな変化である。

前期課程の英語教育を担う英語部会においても、英語の授業の大幅な改編を行ったが、最終的なカリキュラム案をまとめるまでには、部会内で多くの議論があった。そこでは、平成5年以来の、あるいはそれ以前からの、教養学部前期課程における英語教育のありかたが問われ、自らの経験に学ぶかたちで、今後の英語教育のあるべき姿が模索されたのである。限られた条件のなかで、いかに望ましい教育を実現するか。導き出された答えは、理想とするところではないにしても、我々にとって今は最良のものであると考えている。

東京大学の教養教育が、日本の大学の教養教育をリードすべき立場にあるのだとすれば、我々には、我々の経験と模索と実践を、広く学内外に伝える義務があるであろう。そのような判断に立って、英語部会では、平成19年5月25日、東京大学駒場キャンパスにおいて、「東京大学の英語教育：改革の道程と今後の展望」と題した公開シンポジウムとワークショップを催した。これには、平成18年度に施行された新カリキュラムによる一年間二学期の教育の実績をふまえた、自己点検の機会としての意味も込められていた。

当日は、天候にこそ恵まれなかったが、学内外からの多くの聴衆を集めることができた。大学での英語教育に携わる人々ばかりか、高等学校で教えておられる方々や、英語教育に関心を持つ大学院生の参加を得たのは、まことに心強いものがあった。金曜の午後一杯を使った5時間に余るプログラムは、多くの成果を生み出したと自負している。

本冊子は、このシンポジウムおよびワークショップの記録である。シンポジウムでは、東京大学教養学部における英語教育の現状についての報告と、報告をふまえたパネルディスカッションを企画した。ワークショップでは、18年度のカリキュラム改革によって導入されたプレゼンテーションとコンプリヘンションの授業をめぐって、公開のファカルティ・デヴェロップメント (FD) を行った。

大学での英語教育をよりよいものとするため、我々は模索と検証の機会を積み重ねていなくてはならない。本冊子が、学内外の多くの人々の参考となれば幸いである。

平成19年9月
東京大学教養学部英語部会
菅原克也

目次

公開シンポジウム報告書

東京大学の 英語教育

改革の道程と今後の展望

CONTENTS

はじめに

教養学部英語部会主任 菅原 克也 3

挨拶

総合文化研究科副研究科長 長谷川 壽一 7

第1部 シンポジウム

「英語教育のカリキュラム」

司会 アルヴィ宮本なほ子

報告

英語教育カリキュラムの全体像 山本 史郎 8

英語 I の体制

教材の改訂について 西村 義樹 10

[参考]

On Campus/Campus Wide - 東大発、新しい英語教科書 ホーンズ・シーラ/矢口 祐人 14

運営の体制について 加藤 恒昭 16

教室から 坪井榮治郎 22

英語 II の体制

PO (Presentation/Oral) の授業について 中尾まさみ 24

R (Reading) の必修化と語彙集の編纂について 能登路雅子 28

作文教育

ライティングセンター (CWP) の活動について トム・ガリー 32



CONTENTS

パネル・ディスカッション

駒場の英語教育はどうあるべきか 34

司会 木畑 洋一

パネリスト 山本 泰 (教養教育開発機構)
菅原 正 (相関自然部会)
内野 儀
齋藤 兆史

総括

駒場の英語教育の今後 菅原 克也 50

第2部 ワークショップ

「教室の現場で — P (Presentation) と C (Comprehension) —」

司会 エリス俊子

報告と構想

PW (Presentation/Writing)	伊藤たかね	52
PO (Presentation/Oral)	小林 宜子	58
PO (Presentation/Oral)	山本久美子	60
C (Comprehension)	河合祥一郎	64

全体討論

あとがき

英語部会FD委員長 中尾 まさみ 80